

津支店 地域全体で輸出促進を
県産品の海外展開セミナー

今年度、津支店では3事業合同で百五銀行と連携し、「県産品輸出促進」に向けたプロジェクトチームを発足。その活動の一環として地元大手物流企業と東海農政局とも連携し、「海外展開セミナー」を共催しました。

個社単位のみではなく、地域全体で輸出促進を捉える『地域資源の活用とブランディング』をテーマにおこなった講演とパネルディスカッションには、お取り引き先のほか、行政機関などが参加。多数のメディアに取材を受けるなど盛会となりました。

10月6日、参加者…107人



第3部パネルディスカッションの様子

盛岡支店 県産食材の直売イベント
宣伝や集客に取り組み

コロナ禍で販売機会が減少する農・漁業者や食品企業を支援するため、イオンスーパーセンター釜石店で「いわてみのもりマルシェ」を企画開催（後援：岩手県、岩手銀行）。売り場やロゴデザインなどのブランディングについて、岩手銀行の地域商社と連携し、PRや集客に取り組みました。

来場者からは「普段見かけない県産食材が買えてうれしい」、出展者からは「沿岸部の消費者の反応が良く、今後の販売戦略に活かしたい」などの声が寄せられました。

10月8～10日、出展者…公庫お客さまなど37先



県のマスコットキャラクター「そばっち」が来場（右下）。集客にひと役買いました

横浜支店 同業者と知り合う機会提供
若手農業者の交流会

県内の新規就農者を対象とした交流会を開催。第1部のセミナーでは、株式会社PEEKABOO（三浦市・野菜生産）代表の石井亮氏が登壇し、先輩農業者代表として「魅力ある農業経営を目指して」と題した講演をおこないました。第2部では、参加者がグループに分かれて意見交換。県内で就農した人同士が知り合う機会をつくりました。

10月18日、参加者…33人



3グループに分かれたことで話がはずみ、盛況のうちに閉会しました

千葉支店 農業求人サイトに学ぶ
人を集める職場の魅力

「人が集まる職場の魅力を探る」をテーマに、一般社団法人千葉県農業協会と共催した「若き経営者の集い」に、求人サイトを運営する株式会社あぐりーん代表取締役の吉村康治氏が登壇。30～40代を中心とした多岐にわたる営農類型の参加者が耳を傾けました。

吉村氏は「応募する人が働きたいと思える会社にしていくことが大切」と語り、参加者からは「自社の魅力をうまく伝えられるように工夫していきたい」などの前向きな声が寄せられました。

10月28日、参加者…14人（オンライン含む）・11月18日、参加者…4人



人材確保のポイントを丁寧に解説する吉村氏



企業ブースでは熱心に質問する姿が見られました

秋田支店

**就農を将来の選択肢に
高校生に向けたセミナー**

県や秋田県立大学と連携して、県内の農業系高校の生徒向けに「雇用就農セミナー」を開催し、学生・生徒などが参加。農業法人8社によるプレゼンテーションの後、高校生が企業ブースを見学しながら質問するなど就農への理解を深めました。

複数のメディアが取材に来場。夕方のニュース速報で報道されるなど話題を呼びました。参加者からは「将来の選択肢が増えた」「職業としての農業を理解してもらえ、良い機会になった」などの感想が寄せられました。

11月10日、参加者…160人



真剣な表情で公庫の説明に耳を傾ける参加者

情報
企画部

**来日した海外金融機関に
日本の農業金融を説明**

国際協力機構が実施しているフィリピン南部ミンダナオの平和・発展への支援の一環として、フィリピン土地銀行などから招待した14人が来日し、訪問先の一つとして公庫に来訪しました。

公庫からは「日本の農業金融と日本政策金融公庫の役割」について説明をおこない、新規就農者への支援や民間金融機関との連携についてなど、質疑応答は熱を帯びました。参加者からは、「現地の政策金融に活かしていきたい」などの感想が寄せられました。

11月10日、参加者…フィリピン土地銀行ほか19人



関西圏の消費者に十勝根釧の生乳・乳製品をPR

帯広支店

**十勝・根釧の酪農応援
大阪市でマルシェ開催**

コロナ禍の需要減少や物価高騰などの影響を受け、酪農業界は厳しい状況に直面しています。

そんななか、生乳の消費拡大を応援するため、十勝・根釧の牛乳・乳製品や、牛乳を使用したスイーツを販売する「十勝・根釧から直送MILKマルシェ」を大阪市の北海道とさんプラザあべのハルカス店で開催しました（協力…日本プロ農業総合支援機構）。公庫のお客さまなど18先が約60品を出品。期間内にリピート購入された方もおり、十勝・根釧の酪農の魅力発信につながりました。

11月16日～22日

札幌支店

**水産物輸出のための
ブランド力向上を学ぶ**

「水産ブランドینگセミナー」を日本貿易振興機構（ジェトロ）とオンライン共催。長友国際法律事務所代表弁護士の高友隆典氏が「水産施策の方向性とブランド力向上の取組み」をテーマに講演しました。

長友氏は「強く魅力的なブランドを育て、世界で闘える競争力を身に付けるには、北海道ブランドに頼らない独自のブランドづくりが重要」と力説。参加者は熱心に耳を傾け、「水産資源の付加価値向上につながるヒントが得られた」などの感想が寄せられました。

11月21日、参加者…46人



水産庁勤務の経験を活かし、水産業経営アドバイザーも務める長友氏（中央）

第16回

アグリフードEXPO東京

——国産農林水産物・食品の商談会——

2023年 開催決定

オンライン商談会

▶5月中旬～9月下旬

展示商談会(東京ビッグサイト)

▶8月23日(水)～24日(木)

詳細は追って公庫HPでお知らせします。

- リアル×オンラインのハイブリッド開催
→16回目となる開催実績で多様なバイヤーを誘致
- 輸出特別フロアの設置
→輸出支援関係機関や貿易商社が参加
海外情勢セミナーや輸出相談・商談を実施
- グローバル酒類パビリオンの設置
→国産酒類の集約出展。国内外両面の販路拡大を支援



過去の開催模様の動画もご覧ください

主催／日本政策金融公庫

AFCフォーラム 2023.1 冬1号

■編集 前田 美幸 今村 潤 高雄 和彦
大谷 香織 澤田 真理 鈴木 晃子
竹中 タ美

■編集協力
村田 泰夫

■発行 株式会社 日本政策金融公庫
農林水産事業本部

■印刷 株式会社 佐伯コミュニケーションズ

ご意見・ご感想をお寄せください

参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気づきの点などメール、電話、FAX、郵送でお寄せください。

メール: anjoho@jfc.go.jp

電話: 03-3270-2268

FAX: 03-3270-2350

郵送:

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

日本政策金融公庫 農林水産事業本部

情報企画部 「AFCフォーラム」あて

みんなの広場

◆「農地集約と水田農業の姿」が特集された秋1号では、「地域計画」の作成を求める農業経営基盤強化促進法などの改正について知ることができた。

国内最大規模の株式会社西部開発農産(宮城県北上市)の事例では、農地バンクが当初、期待された役割を果たし得ていない制度上の課題が明らかになっている。創業者の照井耕一氏から農地集約のご苦労をお聞きしたことがあるが、ノウハウが次世代に着実に継承されていることは喜ばしい。

農学系の学部・学科に所属しない私のような大学教員にとって、本誌は貴重な情報源だ。今後も政策当局者による解説や、全国の活きた現場情報の発信を期待したい。

(香川大学大学院 渡邊 誠)

編集後記

◆ウクライナ情勢の長期化に伴う未曾有の価格高騰は、輸入資源に多くを依存する国内の食料システムの脆弱性を浮き彫りにした。世界的な食料生産と供給力の不均衡の問題も深刻さを増す。「食料危機」は待っているだけでは解決しない。(今村)

◆「新・農業人」の取材に同行した。趣味は「仕事」と言い切る矢野さん。取材者の「夢は何?」という質問に「今、まさに夢の途中です」とこの日一番の笑顔で答えていただいた。全国に矢野さんのような夢を育てねば。改めて思った信州の一日。(高雄)